

(国) 福島大学

人文社会学群
行政政策学類

(公) 岩手県立大学

社会福祉学部
社会福祉学科

キャリア教養学科 (白河高校出身)

Q1.編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

入学当初から考えていました。高校3年次に大学受験を失敗していたので、もういちど四年制大学に入学し直したいという気持ちがありました。桜の聖母短期大学への入学は第一志望ではありませんでしたが、先生方や家族の支えもあり、様々な活動や授業を通して、新たな目標を見つけることができました。

Q2.編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

1年の前期から編入学に関する授業を、1年の後期からは生涯学習センターの小論文講座を受けました。2年に入ってからは社会人基礎力の授業の中で、小論文・英語・面接・志願理由書について指導していただきました。

Q3.実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

2年生になってからは、ゼミの先生に小論文の添削を、英語の先生に英語問題の添削をお願いしました。夏休みに入り、試験直前になってからは学科を超えて様々な先生に志願理由書添削・面接指導をしていただきました。

Q4.編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

とりあえずやってみることで、何度も勉強や面接練習につまずきましたが、あきらめずに取り組みました。1年の時から本を読み、編入先や学びたいことを明確にしていきました。春休みから過去問を解きはじめました。私は英語については参考書を買うことはせず、様々な大学や学部の過去問を解きました。夏休みから面接指導もお願いし、試験に向けて準備を進めました。

Q5.聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

学校内外の活動を通して自主性を身に着けることができました。学生会や参加するなど、多くの経験をすることができ、編入試験の面接でも、自信をもって答えることができました。桜の聖母短期大学で、自分の興味のある活動を自由に行うことができるよう、教職員の皆様が助けてくださったことを心から感謝しています。

Q6.先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

入試直前に先生にかけていただいた、「合否という些末な問題にとらわれず、自分の目的を忘れないでほしい」というお言葉を大切にしていました。編入試験に臨むにあたり、心が軽くなると同時にひたむきに努力することができました。

Q7.①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・
④合格した時の気持ちを書ける範囲で教えてください。

①短期大学に入学したら、自分の学びたいことを知ることができるのだろうか。

②編入試験に落ちたらその後の進路はどうなるのだろうか。

③受かることで満足せず、足りない知識を埋め、遅れないようついていけるだろうか。

Q8.これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

編入試験を受けるにあたり、何度も心折れる瞬間があるはずです。編入試験から就職に切り替えることもあるかもしれませんが、しかし、どのような進路を選択するにせよ、自分の譲れない信念を曲げずにいることが大切なのではないかと思います。